

優秀映画鑑賞会推薦

厚生省推薦

中央児童福祉審議会推薦

☆企画 保健福祉地区組織育成中央協議会 ☆製作 桜映画社

日本PTA全国協議会推薦

全地婦連推薦

文部省選定

遊び場のない子どもたち

社会教育記録映画

黒白 四巻 ¥58,000.-

製作	村山英治
脚本	大西雅夫
演出	菊地正実
監督	正藤昭五郎
撮影助手	田中
製作主任	竹須毅三郎
解説	牟田悌三
音楽	大木正夫

新三河島駅の近くに子鳩遊園と呼ばれる大きな遊び場があります。この一見平凡な遊び場は区立ですが、実は板谷さんという一人の篤志家の努力で出来たものです。この人はひんぱつする子どもの交通事故に心を痛めて、ちょうどそのころ近所の映画館が閉鎖になったので、そのあとを子どもの遊び場にしたいと思い、二年間区役所へ通いつめて実現させたのです。この附近一万五千世帯が子どもたちです。毎日小さな子どもたちが遠くから遊びに来ます。ここには何か子が

※※※※※

遊び場は子どもの生活であり、心身の発育に欠くことのできないものです。が、いつたい現代の子どもたちの遊びはどうなっているのでしょうか。まず、ひろびろとした立派な野球場の出来た東京・南千住七丁目の子どもたちの遊びをながめてみます。路上で遊ぶ子どもたちは狭い道路は銭湯のように混雑しています。昔から戸外に展開することによって日常生活がなめらかに営まれてきたことが、特に道路は子ども遊び場であることはもちろん、夏の夕涼み、子守り、老人の日光浴や話し相手をみつける場でもあつたわけで、住居の狭さもカバーしされておりました。しかし、現在では自動車の侵入によつて子どもたちの昔からの既得権は完全に奪われてしまいました。おまけに、こんな狭い街にも、大人の遊び場や有料駐車場はほとんどふえて、子どものための遊び場は今や一人当り座ぶとん一枚の広さになつてしまつたといわれます。来る日も来る日もこの狭い四角で、子どもたちはイモを洗うように遊んでいます。が、育ち盛りの子どもたちは当然のことながら乱暴です。ブロック塀も穴だらけ。集金に来た大家さんは見つけたらつかまえて警察へ連れて行きたいといひます。大家さんばかりではない、この近所の大人も大抵子どもを厄介者扱いですが、中には横丁のぞりやさんなど、「遊び場がないからかわいそうだよ、子どもなんてさわぐのが商売なんだ・・・」と逆に心ない大人を批判しています。子どもたちは、遊び場がなくとも、何処かに大人には気がつかない面白い遊びをみつける天才でもありますが、同時に危険な遊びや遊び場に心を動かされる要素も多分に持つています。自分の子どもが何処でどんな遊びをしているか知つている親は少ないでしよう。又、ただ漫然とたわろしているようにみえる子どもたちにも何か子ども同志の絆がかんじられます。

※※※※※

この映画は三つの部分に分れていて、はじめに遊び場のない町の子どもたちのありのままの姿が描かれています。ここには、実にいろいろな問題がふくまれていて、観る者に一番考えさせる魅力にあふれています。それに対する大人の努力(対策)は、まだまだ貧しいものですが、ここには、大変よくいつてる区立の遊園の例と、おかしな子どもたちが中心になつてゐる小さなグループの例とを、紹介してありますが、ここにも、子どもたちの遊び場をつくる上で、皆さんに考えさせる重要な問題がいろいろと含まれてゐます。そして、最後に再び子どもたちの遊びの姿にもどつて、結ばれてゐます。つまり、最初の部分と結びとが、子どもの眼で、中二つの部分が大人の眼で描かれてゐるといつてもいいでしよう。

※※※※※ あらすじ ※※※※※

子鳩遊園は現状ではよく出来てゐるといわなければなりません。が、一歩進んでお母さんたちにしつかりと支えられた、地域の子ども遊びのグループでは、学童クラブより多岐にわたる遊びがあります。ここでは、おかしな子ども達に専門家の指導を協力してもらつて遊びが子どもにとつてどんなに大切かを考えながら、放課後の生活を見守る、というより積極的に指導しています。おかしな板谷さん、子どもたちの指導を考えないわけではありませんが、しかし板谷さんにはいえることは、あれをしてはいけなくこれをしてはいけなく、つい口やかましうだけだ。では、みどり会ではどうしてゐるでしよう。或る日、子どもたちはお店やさんから空箱をたくさんもらつてきて、ゴッコ遊びをはじめました。お風呂屋、パン屋、そば屋……大人をハツとさせる子どもたちの鋭い観察力。子どもたちは自分で考えだした遊びの中で自由に楽しみながら、将来社会人になるための大事を勉強を身につけてゐます。子どもたちは遊びおぼろと、おやつを食べながら反省したり批評しあつたりして、翌日も一度同じ遊びをやつてみます。こうして遊びは日一日と発展してゐます。みどり会のお母さんや保母さんたちは、遊びが子どもの生活のなかでいかに大きな位置をしめて、心身の成長にどれほど大切かを考え、狭い中でもまずそれを充たし、ついで広い遊び場を獲得して行く努力もしています。子どもたちのたくましいエネルギーは、今日のような社会の現実の中では、思わぬ方向に発展しないともかぎりません。だからこそ子どもたちの遊びを支えていく大人の力が必要で

も心をとらえてゐるものがあるのです。一般に、せつかく遊園を作つても作りつばなして放置しておくために、子どもたちの心を失つていく例を多く見ます。子鳩遊園は、あとの管理が行きとどいてゐるのです。愛情をもつて、こまかいところにも注意が行きとどいて、水飲場に砂がつまらないうような工夫がしてあつたり、暑い夏はヨシズの涼みが出来たり、小さなプールも秋風が立つといち早く砂場に変わるなど、狭いなかにはいろいろ工夫がなされてゐます。しかし、「公園のおじさん」板谷さんにも悩みはあります。この子どもたちをどう指導したらいいかとすると、彼は全くの素人です。近所のおかしな子どもたちも、口では感謝してくれませんが、進んで手伝つてはくれません。この仕事を誰がどううけついでいくのかと考えると心細い感じがします。

株式会社 桜映画社

東京都新宿区角筈2~8

TEL (342) 5768 (代表)

(配給 教 配)